

森林サイクル学べるボードゲーム

丸紅木材が体験会

丸紅木材
(大阪市、清水文孝社長)
は9月26日、IKONIHブランドとしてテストマーケティング中のボードゲーム「森の守り人」の体験会を開催した。



ゲームに慣れた中盤以降は形勢が変わることも多く、白熱した

ードのハーベスタや刈り払い機は植林などの作業を通常よりも多く行えるためゲームを有利に進めることができる。そのほか、植林から製品化の作業以外でもクイズマスで正解すると勝利点を得られる。遊びながら森

大阪府みどり公社、環境事業協会、

おおさかATCグリーンエコプラザの職員10人が参加し、約2時間のゲームを楽しんだ。

同ゲームは、森林を植えて、伐って、製品化する一連のサイクルや森林の大切さをさまざまな形式で学べる。8歳以上を対象に最大プレイヤーは4人。小学生ら対象の体験会でも好評だったという。

ルールは自分の山林となる3×3のマス内

に最大9本の木を育て、植林から伐採を行って原木を集め、おもちゃ・家具・家などへの製品化を繰り返し勝利点を重ねていくもの。実際の林業で発生する出来事がさまざまなマスで再現されている。例えば、野生動物の被害や虫害、台風や山火事などの被害が発生すると、思うように木が育たない場面も。また、これらの被害は森林保険カードで抑制できるほか、アイテムカ

ゲームボードやカードは林業従事者や原木泥棒の可愛いイラストが描かれ臨場感もある。ゲームで遊んだ後も付随する木育冊子で林業について振り返る機会を作っている。

自分の手番以外でも状況が変わるためゲームは白熱し、出目によってガッツポーズしたり、被害マスが続くとツツコミを入れたりして終始盛り上がった。